笑顔の旅

” Vietnam ”

長野中央病院リハビリテーション科医長　中野友貴

笑顔の旅”Vietnam”　　長野中央病院リハビリテーション科医長　中野友貴

今年の医療生協総代会で勤続３０年を表彰されました。１週間の特別休暇をいただき、何とか有意義に使いたいと思っていたところ、妻に誘われ今年９月、私は初めての海外旅行にベトナムへ行ってきました。抱負はただ、ベトナムのうどん、フォーを食べたいことと、ベトナムであった人たちの似顔絵を描いて喜んでもらいたいということでした。９月１９日にホーチミンにつきました。たくさんのバイクが疾走する様子にびっくり。４人乗りのバイクや、バイクの上で両親に挟まれながら勉強している子どもを見つけて歓声を上げる私たちでした。市場見学を済ませて、夜フォーを食べに行きました。フォーを食べている案内人のゆきさんの似顔絵が１枚目です。ちょっと緊張。フォーはおいしく、あこがれ通りの味でした。サイゴンビールを飲んで酔ってきたところで、従業員の人を描いて渡したところ、大喜び。声をあげて喜んで次々と描いてくれと寄ってきてみんなの絵を描かせてもらいました。その反応の良さに、素朴なベトナムの人柄を感じました。

二日目、フランスの植民地時代に作られた中央郵便局に行きました。有名な代筆のおじいさんの周りで人だかりができていました。売店の人たちが日本語で呼びかけています。民族楽器で日本の曲を奏でています。立ったままお店の従業員を描かせてもらいました。

昼食のお店では、いろんなものを注文して、みなで食べました。デザートの豆を擦った飲み物がとても美味でした。
お客さんが一杯いる中で、キャッキャと喜

ぶ従業員に感動しました。

昼食後旧南ベトナム大統領府にいきました。１９７５年４月３０日解放軍の旗が屋上にはためく様子を思い出しました。入口にいた職員のGU さんを描かせてもらいました。

旧大統領、グエン・バン・チュー大統領もここに座ったのかな？と思うと感無量でした。

サイゴン動物園に行きました。サトウキビを売っているおばあさんから、２本だけ買って、ゾウさんに上げました。意地悪をしてなかなか渡さないでいると、伸びたゾウの鼻から、ハ・ナ・イ・キがふーっと顔に吹き付けられました。得難い体験です。動物臭いにおいはなく、なかなかの紳士だなと感じました。

夜は水上人形劇場に出かけました。民族楽器と、耳触りのよい歌声に魅了されながら舞台のプールで踊る人形たちの踊りに夢中になって見入りました。田植えの様子や、魚とり、イタチか何かとのやり取り、竜が火をふきながら水の上下を踊り狂う様、女性たちの優雅な踊り、村対抗の船こぎ競争の様子などなど・・、後ろがどんな風になっているのだろう、同操作しているのだろうと考えていたら。最後に急に水の中から６人の人たちが顔を出してびっくりさせました。この人たちが操作していたんだとわかったわけです。人形サイズに慣れていたせいか大男に大女に見えました。

マフラーとかTシャツとか、刺繍つきの買い物袋などを買って、サイゴンビールにおつまみのハスの実を買ってホテルに戻りました。

案内のゆきさんは帰り、妻と娘との３人で夕食と買い物に。デパートだったので、値段交渉は成立せず、いい値で買い物。その代わりに似顔絵をかかせていただきました。

３日目はフエに移動。グエン王朝のトウドウック帝廟は壮大なものでした。
グエン朝王宮もとにかく壮大でした。
昼食のお店は、客の取り合いでした。
のんきな、おじいさんがごろりとしているところを描かせてもらいました。

ベトナムの子どもの家をたずねました。ストリートチルドレンを援助することに始まったこの会は、今、農村で生活に困った家族の子供たちも多く受け入れていると小山道夫先生が話してくれました。一生懸命勉強して医者や学校の先生になる子がいたり、手に職をと刺繍の教室を開いて日本の NPO と協力したりしているようでした。

障害の子どもたちも受け入れる診療所も持って運営しているとのことでしたが、時間が無くてそちらは見ることができませんでした。日本人が、ベトナムでこのような活動に情熱を傾け、多くの日本の団体に協力させている努力には頭が下がりました。

４日目は、雨の中、片道３時間かけてベトナム戦争の激戦地ベンハイ川に行きました。戦争博物館がありますが観光地としては不人気？ほとんどお客さんはいませんでした。管理する職員も全く緊張感がなく、ベトナム戦争への思いはだいぶ風化している印象でした。更に地下トンネルで海岸線を守り、生活もしたビンモックトンネルに行きました。地下ト

ンネルを案内してくれたろうあ者の人は７０歳。複雑に入り組んだトンネルを案内してくれました。

トンネルを出るとすぐ下が海。今は海水浴場として、のどかな姿を現していました。わずか４０年前にはアメリカの軍艦が海に浮かびどんどん砲弾をベトナムに撃ち込んでいたし、ベトナムの人たちはトンネルを進めて、そこで子どもを産んだり生活しながら闘っていた。

ホテルに戻って時間が有ったのでみんなでフットマッサージ、ボデーマッサージに行きました。足をもまれながらマッサージ師のキューさんや他のマッサージ師さんを描きました。ホテルから３km のところにアパート？が有り、自転車やバイクで通っているそうです。娘と同じ年頃の彼女らが、にこにことしながらもんでくれてトンネルを歩いた足の疲れがとれました。

フットマッサージに来たスペインのご夫婦の似顔絵も描かせて

いただきました。「アーチスト」といわれたのがうれしかったね。

夕食は近くのカフェに出かけました。ここでもスペインから来たカップルがいてとても喜んで記念写真を撮ってくれとみんなでパチリ。このレストランの壁にはかわいいヤモリが一匹いて、ワイワイさわぎました。ベトナム語ではタンランと呼ぶんだ日本語ではヤモ～リだよなどといい加減なことを言って楽しみました。

このお店は、宿舎のホテルフエのモーリンホテルの横の通り沿いに有る「Stop and　Go」というカフェで看板娘は Hyuenn さんという２２歳のお嬢さんでした。似顔絵も描いたのですが、似ていたかな？

朝からハノイに移動。タイスワン平和村に行きました。枯葉剤被害を受けた子供たちの全寮施設です。みなさん表情が明るく〇〇織りをしていました。脚の不自由な男の人が指導をしていました。糸をこのように道具につけてなどと・・・
みんなで記念写真を撮りました。
笑顔が素敵でした。枯葉剤被害による障害と認められると国から一定の保証があるようです。ゆったりした雰囲気はそこからももたらされているのかもしれないと思いました。

午後はハノイ郊外の焼き物の街バチャンに行きました。

こんなところで買い物をして重くなったらどうしようというのだ・・と言いながら
荷物は重くなっていくのでした。

「お父さん！この花瓶買っていかなくっちゃ！」
「いいんじゃないかい」・・・・・・・・・・
後はご想像にまかせます。

バッチャン焼きを買うと、手作りのかごに入れてくれて、それが嬉しくて次々と買ってしまいました。

夜はハノイホテルの近くのカモ鍋、カエル鍋の店に行きました。

　あ！マイケルじゃないか。と思うような美男子が、下ご

しらえをしたカエル鍋を食べました。鶏肉のように柔らか

いカエルでした。

お母さんもハノイの街で、いい気持ちで手を広げています。

娘もカメラであちこち切り取っていました。

ハノイの夜は、愉快に過ごすことができました。

６日目、世界遺産ハロン湾に行きました。ハノイから高速道路のような道をひたすら４時間走り続けたどり着きました。

木造の大きな船に乗り、
ハロン湾を行きます。普段は飲まない３０ドルもするワインを注文して、おおきなワイングラスについで美味しくいただきました。

船の料理はこのお姉さんがみんな作ってくれました、エビや、カニ、とてもおいしかったです。

道路沿いで小さなパイナップルを料理して食べさせてくれたお姉さん

帰りの道は猛スピードでハノイに向かいました。

ハノイの夕日を追いかけながらどんどん暗くなる道を行きました。
この日の運転手さんが上の写真です。チェッコとかスロバキアとかで車の運転をしていたという方でとても気配りのきく方でした。

真っ暗な中をハノイ空港に着きました。それからが大変でした。案内のゆきさんは９時にいなくなり、頼りない３人がじっと改札を待っていました。いつまでたってもアナウンスがつかない。エ~、向こうでやっている！ッ。あわてて並んで何とか飛行機に乗ることができました。飛行場のドタバタとは無縁のように、ベトナム航空の飛行機の旅は惜ししい食事に落ち着いたサービスであっという間に中部国際空港に到着したのでした。丸。